

コンクリート構造診断士研修報告書作成テンプレート

1. はじめに

本原稿の本文は、「コンクリート構造診断士の研修報告書(2ページ)の執筆要領の概要を示したものである。詳細に関しては、執筆要領で確認するとともに、テーマ区分・分類番号ごとの見本を参照すること。原稿は、A4サイズ横書き40行×1段組、余白は上25mm、下20mm、左22mm、右22mmに指定して作成する。文字のフォント種類はMS明朝・MSゴシック(Windows, Macintosh)、平成明朝・ヒラギノ明朝・平成角ゴシック・ヒラギノ角ゴシック(Macintosh)とし、英数字等にはTimes・Times New Roman・Arial・Helvetica・Symbol(Windows, Macintosh)を使用してよい。その他の種類のフォントについてはPDFファイル作成時のフォント埋込みが正常に行えない場合があるので使用しないこと。

2. 原稿の書式について

2.1 テーマ区分・分類番号、合格番号、著者名、題目

1行目に左寄せでテーマ区分を四角で囲んで示す。また、右寄せで登録番号(合格番号ではないことに注意すること)および著者名(研修者本人の単名とする)を記載する。その後、1行空けて中央に題目を記載する(題目は、原稿の内容を適切に表現したものとし、原稿に1行で収まるようにすること)。題目のフォントの種類はMSゴシック(Windows, Macintosh)、平成角ゴシック・ヒラギノ角ゴシック(Macintosh)とし、大きさは12ポイントとする。

2.2 本文

本文は題目の後に1行空けて1段組で記載する。フォントの種類はMS明朝(Windows, Macintosh)、平成明朝・ヒラギノ明朝(Macintosh)、Times・Times New Roman(Windows, Macintosh)とし、大きさは10.5ポイントあるいはそれに最も近いものとする。章、節の見出しは左端から、項の見出しは1文字空けてから書き出す。また、番号とその後のスペースは半角で記載し、それだけで1行とること。見出しのフォント種類はゴシック体(MSゴシック(Windows, Macintosh)、平成角ゴシック・ヒラギノ角ゴシック(Macintosh)、Arial・Helvetica(Windows, Macintosh))とし、大きさは10.5ポイントあるいはそれに最も近いものとする。また、各章の見出しの上側は1行空けること。

3. 図・表・写真について

3.1 番号とタイトルについて

タイトルのフォント種類はゴシック体の(図-*○○○)で統一し、大きさは本文と同一とすること。文章中の引用においてもゴシック体の(図-*)で統一すること。図・写真の番号・タイトルは図・写真

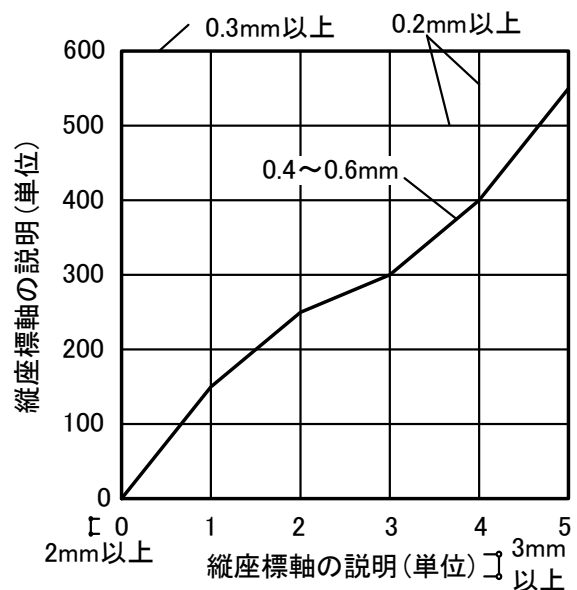


図-1 図の良い例と作図参考寸法

表-1 表の作成例

組骨材 の最大 寸法 (mm)	スラング (cm)	水セメント 比 (%)	空気量 (%)	細骨材 率 (%)	単位量 (kg/m ³)				
					水 <i>W</i>	セメント <i>C</i>	細骨材 <i>S</i>	粗骨材 <i>G</i>	混和剤 <i>A</i>
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
30	8	44	4	34	152	334	636	1214	0.834
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

(位置) の下に、表の番号・タイトルは表の上に記載すること。

3.2 配置

図・表・写真は、本文に近いところに配置し、ページ幅一杯にならない図・表は右側に寄せて配置すること。また、本文と区別できるように、番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行以上空け、左側に本文が入る場合には、本文から各行2文字分空けること。

3.3 色と解像度

図および写真にカラーを使用するのは構わないが、白黒印刷して内容が理解できることが望ましい。また、原稿に貼り付ける写真の解像度や色数は、原稿のファイルサイズに影響するので、必要最小限にとどめること。

3.4 その他

図・表中の文字は、図-1 および表-1 に示すように、できれば本文と同一の大きさとするのが望ましい。余計な空白は入れず、ほぼ2ページ全てのスペースを用いること。